

「日本語教育の参照枠」の活用のための手引き構成（案）

(1) 「日本語教育の参照枠」の活用のための手引きに含むべき項目について

はじめに

目的：Can do をもとにしたカリキュラム開発の方法について事例を挙げつつ、
分かりやすく示すこと

対象：日本語教育コーディネーター、日本語教師、日本語学習支援者など

構成：第1章（理念）

第2章（実践事例）

第3章（Can do で示す能力の範囲）

参考資料等

第1章 理念

1. 「日本語教育の参照枠」とは

（一問一答形式で簡潔に示す）

- (1) 何を目的とし、誰を対象としているのか
 - ・外国語としての日本語教育の推進、成人
- (2) 言語教育観の三つの柱とは何か
 - ・社会的存在、「できること」に注目する、多様な日本語使用の尊重
- (3) 日本語能力観をどのように捉えているか
 - ・日本語能力は言語活動ごとにばらつきがある
- (4) どのようなレベル尺度を用いているのか
 - ・全体的な尺度、言語活動ごとの熟達度など
- (5) Can do には、どのような種類があるか
 - ・活動、方略、テキスト、能力の四種類がある
- (6) 評価の三つの理念とは何か
 - ・自律学習、多様な評価手法の提示、評価基準と手法の透明性の確保
- (7) 期待される効果は何か
 - ・学習者、日本語教師、教育機関、行政機関、試験機関について言及する

2. 外国語教育における Can do の活用の事例と展望

- (1) 外国語教育における Can do の活用の事例
 - ・各言語（英、仏、独、中、韓など）における活用の事例
- (2) Can do をベースにしたカリキュラム実施によって授業はどのように変わるか
 - ・日本語教育における各分野の実践者の囲み記事等

1. Can do をベースにしたカリキュラム開発の方法について

(1) どのようにコースをデザインするか

- ・コースデザインの概説
- ・バックワード・デザイン（逆向き設計）
- ・シラバスへの Can do の組み込み方

(2) 評価方法

- ・テスト、パフォーマンス評価（ルーブリックの作成）、ポートフォリオ評価

2. Can do をベースにしたカリキュラムの事例等

(1) 生活

- ①カリキュラム開発の経緯、背景
- ②対象、目的
- ③カリキュラム開発のプロセス
- ④評価の方法
- ⑤運用した結果、効果
- ⑥課題
- ⑦カリキュラムのサンプル

(2) 留学

- ①カリキュラム開発の経緯、背景
- ②対象、目的
- ③カリキュラム開発のプロセス
- ④評価の方法
- ⑤運用した結果、効果
- ⑥課題
- ⑦カリキュラムのサンプル
- ⑧参考文献

(3) 就労

- ①カリキュラム開発の経緯、背景
- ②対象、目的
- ③カリキュラム開発のプロセス
- ④評価の方法
- ⑤運用した結果、効果
- ⑥課題
- ⑦カリキュラムのサンプル

第3章 Can do が示す能力の範囲－言語教育において重視すべき点－

(1) CEFR において、Can do で示されている能力と示されていない能力について

- ・意欲、態度、価値観などの一般的能力
- ・言語能力、言語活動、言語方略
- ・異文化理解能力

(2) 「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現」のための能力

- ・欧州評議会「民主主義文化のための能力」における 20 の能力

参考資料等

- ・FAQ（一問一答形式）
- ・用語の解説：代替的評価、母語話者、CEFR 増補版など
- ・Can do の作成方法及び検証手法におけるガイドライン（一次報告の再録）
- ・「生活 Can do」の作成方法とリスト
- ・Can do の質的、量的検証の例について
- ・Can do に関する参考文献、報告書、ウェブサイト等